

フィリピン訪問プロジェクト（第二回事務所訪問）

2年男子

3月のフィリピン訪問から2ヶ月が過ぎました。現在、僕たちフィリピンを訪問したメンバーは週に一回のペースで集まり、日本に帰ってから気づいたこと、今後高等部の中でどのようにこのプロジェクトを知ってもらい、高等部が支援している3人の子どもたちを知ってもらうか、などを話し合っています。

先日、フィリピンでは聞けなかったお話を聞きにチャイルド・ファンド・ジャパンの事務所を訪問してきました。現地訪問の前にフィリピンのことを教えていただいた一回目に引き続き、今回の二回目の訪問では子どもの権利条約や僕たちが訪問を終えて気になったことについて教えていただきました。現地のセンターや子どもたちの自立に関する質問をしましたが、お話の中で特に印象に残ったことは、子ども会議の存在です。これは、フィリピンに今ある14ヶ所のチャイルド・ファンドのセンターからそれぞれ2人ずつスポンサーチャイルドが選ばれ、28人が集まって子どもの権利について自分たちで考え、話し合い、それをどのように広めていくかを相談しながらそれぞれのセンターで活動することで、自分たち自身の手で未来を切り開いていこうとするものです。それまでも、厳しい環境の中で学校に通い勉強している子どもたちがどれだけ凄いかをわかっているつもりでしたが、改めてだらしない生活を送る自分との差を感じて恥ずかしくなりました。

また、お話を聞くにつれて、チャイルド・ファンド・ジャパンという団体がどれほどの大きな役割を果たしているか、そこで働く職員さんたちがどれほど優秀な方たちであるか、を僕は強く感じました。

事務所訪問を終え、チャイルド・ファンド・ジャパンについてもっと知りたくなった僕と先輩は、チャイルド・ファンド・ジャパンのネパール大地震緊急復興支援報告会に参加させてもらいました。そこでは2年前の4月に起こった大地震で、ネパールに暮らす人々や子どもたちの生活が急激に変わってしまったこと、元の生活を取り戻すためにどのような支援をおこなったか、を具体的に教えてもらいました。また在日ネパール人の方にお話を聞かせてもらい、日本とネパールの考え方や文化がどのように違うかを知ることができました。

報告会には大勢の方が参加されていましたが、それはどのような方たちなのか気になり、その中の数人にお話を聞きました。ある男性はフィリピンの子どもたちを支援しているNPO法人の理事長をしている方で、子どもたちの未来を守ることに真剣にお話をしてくださいました。ある女性は青山学院の一三期の卒業生で、青年海外協力隊でネパールに行ったことをきっかけにネパールと関わりのある団体と繋がっているそうです。たくさんの方たちからお話を聞かせてもらい、その方たちの温かさに触れることができました。

フィリピン訪問プログラムに参加しなかったらこんなに有意義な体験はできなかつたらと思うます。多くの支援者の方たちとお話しできたことで、青山学院の一員としてこれからもこのプログラムの広報活動を頑張っていこうという気持ちを新たにできました。